

仙台教区報

発行所

カトリック仙台司教区事務所
980 仙台市本町一丁目2番12号
電話〇三二二一22七三七一番

「仙台」司教区五十周年を記念する

教区大会の開催

明後年、昭和61年は、司教座が函館から仙台に移され、同時に名称も「函館」教区から「仙台」教区と改められて以来、丁度50年目にあつてゐる。この50周年を記念して教区大会を開催したいという議案が、去る3月12日の司祭評議会および3月18日の司牧評議会に提出され、審議の結果、大会は期日を昭和61年9月14日(日)〜15日(月)敬老の日)、場所は仙台、として決定された。そしてこの大会を真に意義あるものとするために、その基本方針、テーマおよび具体的な事柄を検討・決定・推進する企画委員会を設置することが決議され、両評議会を代表する七名の委員も選出された。

過去・現在・将来

「過去を振り返ることは将来に対する責任をになうこと」という名言がある。仙台司教区の教区としての実質の歴史は、福島県、新潟県以北の日本を管轄区域とする函館教区の設立(一八九一年)にまでさかのぼるもので

あるが、今、改称以来半世紀ということを一つの節目とし、これを機会に、われわれ信者および小教区共同体が教区の構成員であることを実際に感じとりたい。将来に対する責任をになつていくために、教区の歴史の中で、小教区の、また個人の歴史をかえりみ、現在の日常の信仰を見直したい。

大会準備への参加を

教区大会に関して司祭評、司牧評の両会議で強調された意見は、大勢の同胞が一堂に会すること自体も新しい力の源となるが、それを一時のお祭りに終らせてはならない、というものであつた。大会を教区発展の大きな足がかりとするためには、大会に向けての準備をどれだけ熱意をこめて進めて行くかが鍵となる。企画委員会は結成され動き始めた。大会準備のための運動の呼びかけがこのうち流されてゆくが、個人、小教区において、また地区としても、それへの積極的な参加・協力を惜しむまい。

第18回 世界広報の日 5月27日

「マスコミは信仰と文化のかけ橋」

マスコミが、現代という舞台の真ん中に立つ主役であることは、誰も否定できない。だが、その舞台中央とは、とりもなおさず文化と福音の分裂が繰り返されてきた危険な場所でもある。教会に属するすべての人、とくに一般信者は、それぞれの分に応じて、分裂を癒すべき使命がある。

司教日程

(5月4日現在)

- 5月16日 難民定住対策常任委員会(東京)
- 17日 常任司教委員会(東京)
- 17日〜18日 神学校常任委員会(東京)
- 18日〜19日 女子修道会総長・管区長会(東京)
- 21日 スベルマン病院理事会(仙台)
- 23日 社会福祉法人理事会(仙台)
- 24日〜25日 中央協・財務委員会(東京)
- 26日 社会福祉法人評議会(仙台)
- 28日 教区司祭団月例会(仙台)
- 29日 日本カトリック児童福祉協会全国会議(仙台)
- 31日 人権福祉委員会(東京)
- 6月1日 男女修道会合同役員会(東京)
- 1日〜2日 中央協・財務委員会(東京)
- 3日 会津若松教会堅信
- 7日 常任司教委員会(東京)
- 10日 聖霊降臨祭(元寺小路教会)
- 11日 ドミニコ学院開院記念(東京)
- 12日 カトリック老人福祉職員研修会(東京)



〔祝〕 司祭叙階銀祝

3月22日

アントニオ・ツィゲル神父様(ベトレヘム
会管区長・盛岡上堂教会)

チャールズ・レンネル神父様(宮古教会)

4月3日

佐藤千敬司教様

レンネル神父様の祝賀会は去る3月25日、
ツィゲル神父様の祝賀会は5月5日、それぞ
れの教会で楽しく開かれた。

佐藤司教様のお祝いは、来る7月1日、
元寺小路教会の聖ベトロ・聖パウロの祝いに
合わせて同教会で行なわれる予定である。

石川隆三郎新司祭

志家教会で初ミサ

石川晃氏(盛岡志家教会信徒会長・岩手信
徒連絡会会長)の三男、石川隆三郎師が、3
月17日、名古屋の神言会の聖堂で叙階され、
3月25日、第一の故郷である志家教会で壮厳
に初ミサが捧げられた。その後教会ホールで、
新司祭と枝村神言神学院院长様をかこみ、婦人
会の手作りによる料理で楽しい祝賀会が開か
れた。

隆三郎新司祭は、勉強中二年間フィリピン
に留学。その折に貧しいバリオ村を訪ねたと
き、生活は貧しいが明るく神のみ教えに生き



ようとしている人々を見、カトリック国だが
司祭が不足しているフィリピンのこの村に生
涯をささげようと決心された。
5月には宣教師としてフィリピンに旅立た
れる。

後藤寿庵

大祈願祭

5月27日(日)

午前9時30分より行列(任意)
午前10時より式典

水沢市福原地内 寿庵廟前

(雨天の際は、午前10時より水沢教会で)

今回は、ミサ中の講話「後藤寿庵が現代社
会に残した教訓」を、東北キリシタン殉教史
に造詣の深い、劇作家・田中澄江先生にお願
いしております。

後藤寿庵の信仰と農民に与えた豊かな業績
に接する良い機会だと思しますので多数ご参
加下さい。(水沢教会)

宮城県

カトリック教会信徒大会

メインテーマ…社会にキリストの平和を
日時…一九八四年7月8日
午前10時～午後3時半

会場…仙台白百合学園高校・講堂

内容…ミサ、佐藤司教司式

- ・基調講演、井上洋治師(東京教区)
- ・交流会

第10回 ヤング・クリスチャン・トレー

ニング・スクール開催

青森県信徒連絡協議会の下部組織である青
少年司牧委員会は、3月27日～29日(二泊
三日)、青森市本町カトリック教会で県下の高
校生を対象に、トレーニング・スクールを開
いた。参加者16名、巨理カトリック教会の高
田徳明神父を講師に迎えて、信仰の基本問題
から、信仰者のあるべき姿を、高校生の立場
から、考えた。このヤング・トレ・スクール
は今年で10年目。延べ186名の修了者を送り出
し、上級コース修了者の中から、現在、後輩
の指導に当たっている者も数名いる。

夏のトレーニング・スクールでは、活動的
な高校生同士の交流を計ろうと、プログラム
が今、検討されている。(岩佐 博)

仙台教区司祭異動

司祭異動に関して4月1日号に遺漏があり
ましたので、おわびしてお知らせします。

白石教会主任

平田 浩(東仙台教会主任)

総代理補佐

吉田 昌民(教区会計兼任)

西仙台教会補佐

平賀 徹夫(教区書記長兼任)

喜多方教会主任

エンリケ・ゴメス(白石教会)



新教会法解説

結婚について (3)

安井 光雄神父

無効な結婚

また、親が強制したり、初めから何年後には離婚するという事で結婚すれば無効である。あるいは、教会外で結婚したり、式に立ち会った司祭がそのための権限をもっていなかったり、証人なしに結婚したりすれば、教会は、その結婚が最初から無効であったと宣言する。また結婚式をあげても、式中交わした同意を夫婦関係で固めることをしなかった時は、正当な理由があれば教皇がこれを解消する。

結婚の絆の解消

神から権限を受けた者が結婚の絆を解消できる、聖パウロの特権と教皇の特権(ベトロの特権、信仰の特権)といわれるものがある。前者は、コリント人への第一の手紙(7の10、16)から来ている。一方が回心して洗礼を受け、もう一方が受洗した配偶者と平和に暮らしていくことを拒んだ場合、未受洗者同士の結婚の絆が解消されて、信者になつた人は、他の人と結婚できる。地上における唯一の代理者として、また神からの権能によって、教皇は、教会が定めた幾つかの条件が満たされる限り、未受洗者同士の結婚の絆、および受

洗者と未受洗者との結婚の絆を解消することができる。すなわち、未受洗者同士の結婚がすでに破綻しており、一方がカトリックの人の結婚を望んでおり、そのカトリックの人は容易に相手を見つけることができず、しかもその信徒と知り合つたことが、今の結婚の破綻の原因でない場合に、教皇が靈魂の救いに有益であると判断すれば、前の異宗婚の絆の解消と新しい結婚の許可を下さる。

これらいずれの場合も更に他の手段が若干あるので、詳しくは主任司祭に相談すべきである。ただ、裁判といわれる言葉や、調査という言葉が使われても、決して、一般の市民法と同じに考えずに安心して教会に行ける。というのは、普通の裁判所のように原告・被告といった対審の口頭弁論をせず、個人的にしかも他の人を入れないで、秘密の中に話を聞き、調査をするからである。教会法のめざすところは、一般の法と異なり、靈魂の救いであることを忘れてはならない。

聖年およびYBU15周年記念

聖書美術展を終つて

ローラン・ジョリコール



仙台YBU文化センターでは、特別聖年と開設15周年を記念して、4月1日から8日まで、「聖書美術展」を仙台市民会館で開催した。地下展示ホールは、学校、一般から応募出品された六三〇点の絵画・工芸作品を中心に、ケベック外国宣教会のカロン神父が製作

したステンドグラス、日本聖書協会、バチカン大使館、サン・スルピス大神学校、フランシスコ会聖書研究所、佐藤利吉氏、聖パウロ女子修道会から借用した貴重な聖書、バネル等約百点のほか、YBU文化センター文化教室の華道、書道の作品が会場を埋めた。

4月1日には午前11時15分から駐日教皇庁大使カルー大司教、佐藤千敬仙台司教、島野武仙台市長をはじめ、約一五〇名が参加して開幕式。島野市長は伊達政宗の支倉常長ローマ派遣にふれ、仙台市とローマ教皇庁との古くからの友好を語り、自らカルー大司教に記念品を贈った。

また、3日と4日には同館小ホールで映画と講演会があつた。3日の映画は聖コルベ神父の「愛の奇跡」、講演は三浦朱門氏。4日の映画は「マザー・テレサとその世界」、講演はプロテスタント牧師で文芸評論家の佐古純一郎氏。両日とも各三〇〇名程の聴衆があつた。

8日間を通じて、聖書美術展の延入場者は約二二〇〇名であつた。

この催しにおいて、物心両面からご援助ご協力下さいました大勢の方々、手分けして手伝つて下さつた各教会の婦人会の方々、特別に丹精こめた作品をお送り下さいました方々に心からお礼申しあげます。それから、皆さんへの連絡が不十分であつたり、印刷物に手落ちがあつたりしたことなど、皆さんにご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

司教座聖堂の

パテナとカリス

斎藤 石雄神父



去る4月26日の午後、仙台元寺小路教会を訪ね、司教座聖堂所蔵の教あるパテナとカリスの中の一組を見せていただきました。パテ

「教会報」

特集

野田町「ばんだね」第43号



ボランティアの灯を消さないで「福祉部

白河市西郷にある太陽の国「さつき」荘で寝たきり老人を慰問した時に、老人が涙を流して悦ばれ、帰りに「又来るからね」と念をおして来たはずなのに、それつきり途絶えてあれから七、八年もすぎで、かえってトラピストのガレットを毎年取寄せて食べている私達であります。

これも距離があるし、又、行事が重なってなど訪ねるのになかなか踏切れないでいるところですよ。(これつきりではボランティアにならない)

しかし、大笹生学園と、「けや木」の村はもう十年以上続けているので、この灯は消さずにいたしたいと思います。こちらは日本キリスト教団から話が上って来たと聞いていますが、松木町と野田町で持続しているようなものです。

学園の子供達は、ボランティアの人達のつ

ナとは、ミサ聖祭を献げるとき主の御からだを載せる皿であり、カリスとはその御血を入れる杯です。このパテナとカリスは現在の司教座聖堂が再建されたとき(その頃私はその主任司祭でした)、米人ガノン氏から寄贈されたもので、昭和27年9月23日の聖堂祝別及び祭壇聖別式の当日、司式者の教皇使節フ

くろい物の姿を見る度に母の姿を思い浮かべることでしよう。ふびんな気持が手に取るようにわかります。又、村ではやはり、盆、暮に家庭実習の許可があっても帰れない人、外部の人と語る機会の欲しい人達に定期的に訪れる人々の顔を見るとほっとする、という言葉とそれなりの気持は大切にしたいと思います。

だが、この二つも、やがて消えかかる困難が待ちかまえています。老人には老人が良いべえ、それは女性の仕事だべえとの声が聞こえるようです。若い人もいつか年老い、元気な人もいつか身体障害のうきめを見ないとは言えません。「若しも」と考えるなら、信者であってもなくても、広く慰めの心、奉仕の心をもってボランティアにご協力をお願いします。誰かあつべしたの気持では出来るものではありませんが、そしておれはもう老人だからと思わず、体の動くうちに若くなつて下さい。

久慈「暁の星」一九八四年5月号

教会間の交流

5月20日(日)昨年来久した北上教会との約束で、今年はこちらから訪問します。あい

ルステンベルグ大司教の使い初めの栄に浴した記念の聖器です。一般信徒の供覧にも付され、その前でガノン氏とその家族のために祈り、感謝の意を表したこともありました。

爾来三十年、あの時の信徒の方々とは次々と帰天され、今ではこのパテナとカリスの由来について知っている者は私以外に誰もいないのではないのでしょうか。このたび「教区報」紙上でこのパテナとカリスに触れ、ガノン氏の名を活字として残し得る機会の与えられたことを、私はとてもうれしく思っております。

前記の祝別・聖別式をさかのぼる約半年前程から、日曜日毎によくごミサに与かる若い米人夫妻がおりました。夫君は米駐留軍の軍医で、彼に招待されて伺った時など、身重の奥さんをかばって食卓の準備や後始末に励む心のやさしい人でした。この彼がある日、国の父が司教座聖堂再建の記念に何か寄進したいと言っているのですが、「と切り出しました。これがあのパテナとカリスの誕生の発端です。東京の友人神父に問い合わせて、佐藤さんという銀細工屋さんとお会いすることができました。佐藤さんは金額を知らされ、「立派なものができます。存分に石を使いましょう」と張り切りました。

円形のパテナの直径は一四・七センチ、ラテン語で「これ、わがからだなり」と刻まれています。

一方カリスの高さは二〇・三センチ、上部の直径は一・一センチ、台座下部の直径は

にく花見の時期は過ぎますが、共にミサに与り、5月の空のもと会食。26人乗りのバスを借りますので皆さんと満席にしてください。(3・4月号) 4月22日、復活の主日：ミサの奉献の「愛の袋」は、難民アフガニスタンのために捧げます。自分の立場を置きかえて、がんばって主における兄弟を手伝いましょう。

「はなまき」5月号

— 聖木曜日の説教から —

“あなたの手を出してごらん！”

今日働いた手を見てごらん”

十字架に釘づけられた手は、もう 動くことはありません

飢えている多くの者にパンを与え 病いに苦しむ人々を立上らせ 哀しみにあるものをはげまし 見えない人の眼にふれた手はもう—

子供たちを祝福し 弟子たちの足を洗い ご聖体をわけ与えた手 御父に祈ったその手は、今—

縛りあげられた手 十字架を背負った手 十字架上にひろげられた手は もう動きはしない

動かないその手は その時から あなたの手を求めています

イエズスはねがつています ご自分のように人々に開かれたあなたの手を—

顔を洗い 新聞を開き パンをもつ手 ハンコをもち 書類を重ね 計算する手 電話をかけ 煙草に火をつけ 扉を開く手 コップをもつ手 ビールを注ぐ手

箸をもち テレビのスイッチにふれる手

お父さん！ 手をみて下さい 子供と一緒に

手を合わせて下さい 子供たちを祝福して

下さい 今日、他人のためにどんな使われ方をした手ですか

包丁をもち 料理をし 子供たちを抱く手

洗濯をし アイロンをかけ おやつを準備する手

子供の手をひき スーパーで買物し パー

グンセルの洋服を選び 汗をぬぐう手

子供をねかし 家計簿をつけ 財布の中を数え 縫い物をする手

お母さん 今日働いた手をみて下さい 子供

たちのために祈って下さい あなたのやさしさが 我が子だけに限られる事のないように あなたの手を待っている子が他にも

いるかもしれません

子供は大人をじつと見ています

イエズスは見えています いつも— あなたの

手で愛そうと希う多くの人を思っています

今日 イエズスは あなたの手の働きに

“ありがとう”といえるでしょうか

あなたの手 わたしの手 イエズスの手

一三・セセンチ、杯と台座を結ぶ握り目(取っ手)は象牙、外面にちりばめられた宝石は菱形の赤石と青石のそれぞれ四個ずつ。更に円形の赤石四個と白の真珠四個。平日用としては華美過ぎるが大祝日用としては好適、と私は考えています。刻まれた文字は、まずラテン語で、「これ、わが血の杯なり」とあり、次に英語で、「ブルックリン在住のトマス・ガノン、己がガノン・マグワイア一族を記念してこれを奉納す」と刻まれています。ついでにこれを逆さまにしてみましたところ、次の懐かしい日本語を見つけました。

「このカリスは米人トーマス・ガノン氏より贈られたものにして仙台司教座聖堂に所属することを証言す。一九五二年九月二十三日。主任司祭斎藤神父」

司教座聖堂の現在の建物は、いつかは取り崩される日が来ることでしょう。しかしあのパテナとカリスは残る。あのパテナとカリスをもつて献げられるミサ毎に、ガノン・マグワイア一族の上に注がれる、神さまの豊かな御祝福とともに：。

自然な家族計画(NFP)学習会

第四回学習会は、4月24日、元寺・信徒館で開かれました。次回は同所で、5月22日午前10時から、基礎体温について。6月には、「図説排卵法・ピリングス式受胎調節法」に携わっている寺尾総一郎神父による学習会です。多数ご参加下さる。

おらが教会

(43)

宮城・古川教会



仙台からへだたること北方約44km、仙北平野大崎耕土を占める古川市に、おらが古川教会がある。

大崎地方一市四郡と黒川郡の一部を所轄として、その中心地古川市に教会が建立されたのは昭和38年9月14日のことである。それ以前には、古川市千手寺町にある民家を借り、この家屋を改修して「古川カトリック教会」の表札をかかげた仮教会時代があった。さらにそれ以前には、信徒は築館や仙台の教会で祝祭日のミサにあずかっていた。

川井神父様は現在の主任司祭であるが、仮教会時代、昭和32年10月より二代目の主任司祭としても宣教司牧に尽くされた。初代の稲用神父様の時代には仮教会もまだなく、仙台から毎日行脚の旅を続けながら宣教司牧にあたり、たつておられたと聞いている。ただし、古川教会の洗礼台帳の第一号は、昭和31年4月17日、仙台から古川へ巡回しておられた児山神父様の手によるものとなっている。そしてその時代に土地を購入し、現在の教会の礎が

きあがった。

このような経過を経て建立された古川教会は、小林有方司教様自ら構想をこらして設計されたものである。建物自体が十字の形をしており、当時としては近代的スタイルの教会であった。また、聖堂の祭壇は公会議のミサ新典礼に基づいてつくられた対面式のものであり、仙台教区第一号と言われた。しかし、川井神父様や私達信者にとっては奇妙な感じがし、戸惑いを語りあつたことが昨日のことのように思い出される。もう一つの思い出としては、教会建立の翌年6月、石巻・涌谷・小牛田・古川・鳴子各地区の信徒一四〇名が新教会に参集し、小林司教様による合同堅信式があつたことがあげられる。

教会開設の大役を果たされた川井神父様は昭和42年、西仙台教会に転任され、その後、吉田神父様が着任されたが短期間の在任であり、翌年には渋谷師が着任された。

渋谷師は、教会として地域社会に貢献したいと考え、地域に保育所が不足していることから、社会福祉法人カトリック児童福祉会の協力を得て、昭和45年10月1日、東町カトリック保育園の開設にこぎつけた。なお、保育園舎建設のため、教会の建物は両翼を切り離し、現在地へ移動することになった。

昭和52年渋谷師の辞任にともない、再度川井神父様を五代目の主任司祭として迎え、現在に至っている。

現在、日曜のミサには十数人の信徒が集うのみである。信徒の不徳が原因か、それとも

教会の建物が両翼を切り離してスマートになったことと呼応して信徒も精鋭化したものだろうかと思える最近である。

川井神父様は一市五郡にわたる信徒の宣教司牧に従事するとともに、保育園長も兼務して地域社会に貢献し、また、上原巡回教会で月に一度ミサをあげられる等、精力的に活動しておられる。

昭和58年度教会現勢調査表によれば、古川小教区の信徒総数は一〇七名である。しかし信徒は一市五郡の広範囲にわたって散在しているため、教会の活動という面では何かと難しい。だが、信徒は各人が教会であり、その使徒職を行なうよう神より派遣されている預言者であるという言葉をおらが教会の信徒の信条とし、また、使徒職のエネルギーの最大源である主日のミサには普段は十数人しか集まらないとはいえず、そこから溢れる恵みが小教区全体に満ちるものとなるよう働きたいと考えている。このことはどこに生きようとも信徒にとって共通のことではないだろうか。

(橋本 改)

【編集後記】



◎「家庭から社会にキリストの平和を」という教区目標が掲げられて三年目、今年は「社会にキリストの平和を」◎ロス五輪をめぐり端的に現れる東西分裂、戦争と飢饉により飢餓に苦しむ無数の人々◎相互不信と敵意、争いと惨禍、人間自身がその原因である◎同時に被害者である(GSB)◎キリストこそ、互いに離れていた二つを一つにした(H)